

沿革

柳瀬荘は実業家、また茶人としても名高い故松永安左エ門氏（耳庵）の別荘だったもので、5,000坪を越える敷地内には武蔵野の面影を今にとどめる雑木林も残され、周辺の開発から一線を画した貴重な自然環境を保っています。昭和23年（1948）3月に東京国立博物館へ寄贈され、現在は週に1回一般に公開されています。

荘内の主要建物である「黄林閣」は江戸時代・天保期の民家の特色をよく示すものとして昭和53年（1978）に重要文化財に指定されました。荘内にはほかに書院造りの「斜月亭」や茶室の「久木庵」などが残されています。

東京国立博物館庭園にある茶室「春草廬」も、もとはこの柳瀬荘にあったものです。

松永安左エ門氏

明治8年(1875)～昭和46年(1971)

電力事業に生涯を捧げ「電力の鬼」といわれた実業家。長崎県壱岐の地主兼回漕問屋の出身。石炭商として注目を集めました。日露戦争後、電力事業に情熱を注ぎました。九州および中京地区に相次いで電力会社を創設し中央財界へ進出し、第2次世界大戦後には、政府機関の要職につき9電力会社を発足させました。60歳より茶道をたしなんで名器を集め、ここ柳瀬荘において数々の茶会を催し、数奇者としての名をほしいままにしました。昭和23年（1948）、それまでに収集した美術工芸品を柳瀬荘とともに東京国立博物館に寄贈し、それらは同館の貴重な収蔵品となっています。

《柳瀬荘案内図》



所在地 埼玉県所沢市大字坂之下437番地
敷地面積 17,235㎡

《交通案内》

志木駅（東武東上線） 跡見女子大行きバスで15分
「中野」下車徒歩5分
所沢駅（西武新宿線・西武池袋線） 志木駅南口行きバスで25分
「西側」下車徒歩3分

《利用案内》

公開日 毎週木曜日
ただし、年末年始（12月23日～1月15日）は除く。
公開時間 10:00～16:00（4月～9月）
10:00～15:00（10月～3月）
見学科 無料
現地問合せ 04-2944-2009

《東京国立博物館》

住所 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館
問合せ 03-5777-8600（ハローダイヤル）
ウェブサイト <https://www.tnm.jp/>

柳瀬荘



黄林閣（重要文化財）
撮影 鈴木孝史

TNM 東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

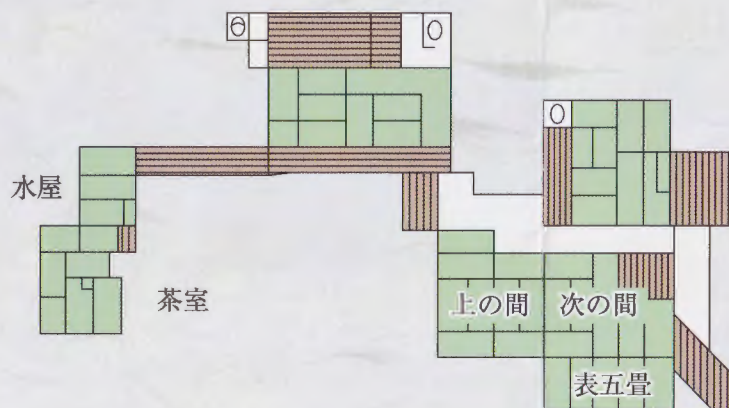
施設概要

きゅう ぼく あん 久木庵

江戸初期の建物で越後の武士 土岐二三の茶室でした。解体されていた材料をもって、昭和13年（1938）から翌14年にかけて建て替えられたものです。

2畳台目の茶室と4畳ほどの水屋で構成され、外部は茅葺（現在は庇の一部を銅板で改修）の真壁造り、内部は杉の面皮柱、土壁、竿縁天井、網代天井など落ち着きのある茶室です。

木造平屋建 建築面積 17㎡



久木庵

しゃ げつ てい 斜月亭

昭和13年（1938）から翌14年にかけて建築されたもので、数奇屋風書院造、8畳の上の間、6畳の次の間、縁座敷の表5畳で構成されています。

東大寺や当麻寺などの古材をもって造られたと伝えられ、床柱を丸とした数奇屋風の書院座敷でありながら長押を廻し、侘び寂びの通念を打ち破る琳派風の襖絵を取り合わせ、放胆自在の近代数奇者、松永氏の個性あふれる建築となっています。

木造平屋建 建築面積 151㎡



斜月亭

おう りん かく 重要文化財 黄林閣

天保15年（1844）、現在の東京都東久留米市柳窪の地に大庄屋の住居として建てられたものを、昭和5年（1930）に故松永氏が譲り受けてここへ移築し、別荘として使われていたものです。

民家というよりは寺の庫裡を思わせるような大きな造りで、ふところの深い土間や天井の高い座敷は質実のうちに格調高い雰囲気을漂わせており、数少なくなった武蔵野民家の遺例として貴重なものです。

木造平屋建、入母屋造茅葺

建築延面積 381㎡

昭和53年（1978）国の重要文化財に指定される

黄林閣